



ぶらり昭和区MAP

たきかわ いかつ
～滝川・伊勝～

1 福聚山 寶珠院

寛永年間(1640年頃)に創建された、曹洞宗の名刹です。先の大戦で建物は焼失しましたが、昭和40年に本堂・庫裡が再建され、平成元年には総繪造り白壁の唐様四脚門(からようしゃくもん)が落慶しました。本堂には本尊の福聚延命地藏菩薩のほか庚申(こうしん)像があり、境内には秋葉堂、石仏三十三観音、役行者(えんのぎょうじゃ)像、不動明王像などがあります。また、平成21年には伊勝小学校北門前にあった観音様や弘法様も、境内に祀られました。

佐久間玄蕃盛政(初代金沢城主)の伊勝城があったのも、この辺りと言われています。

2 伊勝八幡宮

古くから伊勝村の氏神様として崇敬される伊勝八幡宮は、熱田神宮とほぼ同じ時代に創建されたと言われています。主祭神は、品院和氣命(ほむだけのみこと)です。宝物の一つである狛犬は、瀬戸で焼かれた陶製で、底部に応永25年(1418)の墨書きがあることから室町時代のもものと推測されます。愛知県指定文化財として、現在は名古屋市博物館に保管されています。

境内には、千年以上の樹齢を持つ御神木のアベマキ(名古屋市指定保存樹)や、秋に小さな白い花を咲かせるリンボクが自生しています。

3 鶴林山 仙松院

伊勝八幡宮のすぐそばにある、浄土宗西山禅林寺派のお寺。山門は珍しい江戸中期の平唐破風(ひらはらふ)造りで、1本も釘が使われていないのが特徴です。山門をくぐると、補陀落山(ふだらくさん)への渡海をイメージして造られた枯山水の庭が広がります。南インドにある補陀落山は、観音菩薩が住む清浄な世界と言われています。

ご本尊は約400年前に作られた阿弥陀如来です。平成30年に、阿弥陀三尊像と祖師像2体がきれいに修復されました。現在は、作られた当時と同様の無量光仏の光輝く美しいお姿を見ることができます。

4 桑山美術館

知多出身の実業家・桑山清一が収集した近代の日本画や鎌倉時代から現代に至るまでの茶道具を中心とする所蔵品を展示・保存するため、昭和56年に開館しました。閑静な住宅地にあり、建物は和風の庭園の一面に位置し、ヨーロッパの古城と思わせる丸みを帯びた線の屋根とベージュ色のタイル壁の外観です。

回遊式の庭園では四季折々の花が見られ、さまざまな形態の灯籠が点在し、散策を楽しむことができます。

■開館時間:10:00～16:00
■休館日:開館期間中の月曜(月曜が祝日の場合は翌火曜休館)、祝日の翌日および展示替期間(2～3月・7～8月・12月)
■入館料:一般500円/中高大学生300円

5 味岡山 香積院

貞享4年(1687)、名古屋の商人・味岡次郎九郎が早死にした一人娘の菩提を弔うために、現在の寺地を寄附したことに始まる曹洞宗のお寺で、開山は寂元光熙和尚です。

本堂の前には入口が丸い特徴的な形の丸門があり、寺宝として曹洞宗の開祖・道元禪師の真筆「一葉観音画像」があります。観音堂には、これを基に仏師・西村公朝が刻んだ「一葉観音像」がお祀りされているほか、西村公朝が監修した天井画も描かれています。観音堂の隣には視覚障害の方が手を触れて拝むことができる「ふれあい観音」が祀られています。

6 旌忠社跡

明治2年(1869)、尾張藩主・徳川慶勝が戊辰戦争で戦死した藩士達25名の霊を昭和区川名山町に祀り「旌忠社」と号しました。明治8年(1875)、国家の祭祀となり社殿を創建し、「招魂社」と改名しました。明治45年(1912)に千早一興正寺前の「尾張電気軌道」が開通すると、「招魂社下」駅が設けられ、祭日には大変にぎわったそうです。「招魂社」(旌忠社)は、大正7年(1918)に城北練兵場(名城公園)へ、昭和10年(1935)に中区三の丸へ移転し、名称も「愛知県護国神社」となりました。



7 渡辺健一トリックアート美術館

トリック技法の多さで、国内随一を誇るトリックアートの個人美術館が、いりなか駅近くにあります。トリックアート専門作家の渡辺健一氏のオリジナルティ溢れる不思議な作品は、小学生から大人まで楽しめます。館内は感嘆の声に包まれています。テレビ放映は70回近く、主要新聞にも多く取り上げられている人気のスポット。夏休みには、自由研究で訪れる小中学生も目立ちます。

洋画家の渡辺健一氏は、松栄小学校、桜山中学校卒業で、昭和区と深い繋がりがあります。

■開館時間:10:00～16:00(最終入館15:30)
■休館日:月・火・月・火が祝日の日は開館、年末年始
■入館料:大人(高校生以上)600円/子ども(小・中学生)300円



8 持福山 光真寺

曹洞宗の寺で本尊は聖観世音菩薩です。織豊時代の清洲に元興和尚が松寿寺を建立したのが始まりです。清洲越しを経て宝永2年(1705)、中区門前町に南佳恵仙和尚を開祖として光真寺を創建しました。後に都市計画の施行により、大正11年(1922)現在地に移転しました。

寺の山門前の石柱に「南無不載薬師如来」と彫られています。この薬師如来は「不載(かざらず)薬師」と言われ、平安時代に利休仙人が彫ったものです。その名前の由来は、深く信仰する農民が旅の途中に賊に襲われ斬られたが、お札が身を守ったと伝えられています。

9 法喜山 櫻 誓願寺

元亀3年(1572)清洲に創建され、慶長年間(1596～1614)の「清洲越し」により、現在の名古屋市中区白川町へ移転し、昭和17年(1942)に現在地へ移りました。開山上人が比叡山より持参し、お手植えと伝わる菊樹にちなんで、「櫻誓願寺」と呼ばれています。

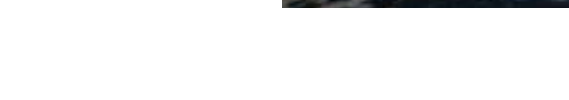
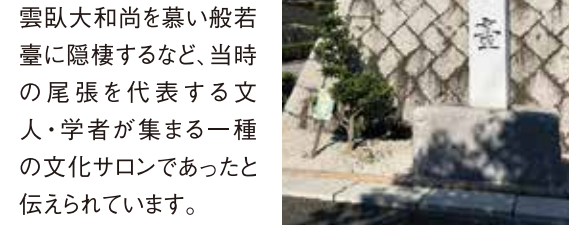
境内には、「延命がわり地蔵尊」が安置され、「杉立庵」と「報田庵」の二つの茶室があります。



10 般若臺

香積院別院。四世住職・雲臥元淳(うんがげんじゅん)大和尚が、宝暦12年(1762)、禅庵をつくり隠棲したのが始まりです。雲臥大和尚は中興開山と称えられる名僧で、香積院に伝わる「大般若波羅密多經」600巻は雲臥大和尚の書写によります。

往時の般若臺は、江戸時代に刊行された『尾張名所図会』に登場する名勝でした。尾張文人画の祖とされる丹羽嘉言(にわかげん)が雲臥大和尚を慕い般若臺に隠棲するなど、当時の尾張を代表する文人・学者が集まる一種の文化サロンであったと伝えられています。

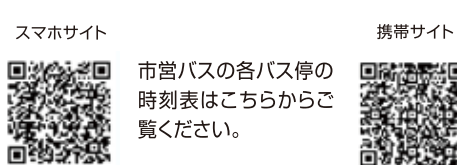


マークについて

- 史跡、社寺など歴史的まちあるきポイント
- 美術館、モニュメントなどのまちあるきポイント
- マップの裏面にコラムがあります。

- バス停
- 神社
- 寺院
- 交通・警察署
- 消防署
- 学校・幼稚園・保育園等
- 郵便局
- コンビニエンスストア

学区境界線



市バス・地下鉄テレホンセンター
TEL 052-522-0111
営業時間 8時～19時(年中無休)

※地図の情報は、令和2年2月現在のものです

飯田街道・滝川ルート 伊勝・南山大学ルート

0 100 200 300 400 500m

12 妙見山 浄昇寺(川名の妙見さん)

参道の階段に「妙見宮」と書かれた鳥居があり、神社と思われがちですが、日蓮宗のお寺です。神と仏は同じであるという「神仏習合」の様子がはっきりと残る興味深いところ。天保3年(1832)摂津国能勢の妙見山から御神体(妙見大菩薩)をいただき祀ったのが始まりです。本堂には2つの破風を持つ入り口があり、「北辰殿」「浄昇法堂」という額がかかっています。妙見大菩薩は、この北辰殿に祀られていますが、「北辰」とは北極星をさし、天帝の星と考えられ、仏教に取り込まれたのが、妙見大菩薩です。また、「妙見」とは、世の中の善悪や真理を見抜くということから、眼病治療にもご利益があるそうです。

境内には、「白馬」も祀られています。日清・日露戦争とともに戦った馬と一緒に凱旋した中沢中尉が、別れるのを惜しみこの寺へ神馬を寄進したのが由来です。



13 中正山 圓立寺

山門に、勘亭流の力強い文字で「圓立寺」と書かれたヒノキの表札が掛かっています。歌舞伎の「招き」と呼ばれる看板の文字と同様です。実は、京都南座の招き看板の製作者によるもので、頂部も「招き入れる」の意味を込めて「入」の形になっています。

創建は元和5年(1619)。いくつかの場所を経た後、中区古渡町に落ち着きます。ところが、昭和20年3月の空襲で堂宇を焼失。その後、再建しますが、昭和54年に現在の地へ移転します。本堂には、焼け跡から見つかった胎内仏のような小さな釈迦様立像と、鳥取城の開帳(寺の本尊・秘仏等を寺院外に移して公開すること)で参拝された日蓮聖人の座像が安置されています。



14 永照山 西光院

山手通4丁目のバス停前に建つ、浄土宗の寺院で、立派な朱色の山門が目印です。永正・大永年間(1504～1522年)に清洲に創建され、この赤門も織田信長から寄進されたと伝えられています。

清洲越しの先駆として慶長9年(1604)に白川町へ移転。さらに、太平洋戦争が始まると、白川町を防空公園にする計画が持ち上がり、昭和18年(1943)、現在の地に移ります。清洲時代からのご本尊は500年以上経っている仏様です。

墓地には、頂部が三角形になった武家の墓がたくさんありますが、これらも清洲の頃からのものではないかと推測されます。



10の般若臺から山手グリーンロードに抜ける道は階段になっているよ!

15 竜松山 徳林寺

500余年以前より今の白川公園に建立され、戦時中に強制疎開で現在の場所に移転した浄土宗の寺院です。小高い雑木の自然林の中、正面参道には、鎌倉期のものと言われる不動明王、その側には、明治時代に活躍した相撲力士、初代高砂浦五郎の碑があります。本堂前には、名古屋城築城の時に堀川から現れたと伝えられる別の不動明王があり、その柔和な姿から「童顔不動」と言われています。

玄関脇には、国文学者で万葉集研究者の高木市之助の歌碑、境内の墓地には、尾張勤皇派として活躍した田宮如雲の墓があります。

16 中部日本自動車学校 一生無事故の碑

昭和区八事に所在する中部日本自動車学校入口付近に建てられている「一生無事故の碑」は学校創立20周年記念(昭和52年)に建立された自動車学校の教育方針と永遠の宿願テーマの表明宣言です。

自動車教習所を卒業し、自動車運転免許証を取得後も卒業生が日々の自戒とともに慎重で安全な運転をすることを希求する学校の方針を自動車教習所入口近くに建立し、在校生と卒業生への願いを表しています。

